



なきごえ



1989

9

大阪市
天王寺動物園協会

岩本 泉 治



まるで時間と重力を失ってしまったような霧の森。落葉の積った白い世界をふわりふわり歩いてる。ふと我に返って自問している。「ここはどこだろう。なぜここにいるのだろう。」

そんな不思議な体験ができる、霧の大台ヶ原も捨てたものじゃない。元より、霧がこの森を作り、森が動物を育てている、そう考えれば、この白い幻想的な森は、多様な生命を宿した、静かな生き物に思えてくる。なにしろここは、野鳥や昆虫はもちろん、シカやリス、ヤマネやノウサギなど、動物の種類と数に関しては、関西では一番密度の濃い場所なのです。おかげで、大台を愛する心優しい人達から、「こんな良いところで生活して、それに給料までただで、結構な事ですね。」などと、まるでうらみ事のような事を言われながらも、毎日、色々な動物との出会いを楽しんでいるのです。

しかし、こんな楽しい職場にいても、実はあせりと言うのか、何か欲求不満のようなものがありました。と言うのは、私はこの大台で、アナグマを見た事がなかったのです。私の同僚は、アナグマとはすでに、ご対面済みなのに。

そいつは、数10m先からトコトコ歩いて来て、彼の足元で立ち止った。鼻を上げて、クンクンと彼の匂いを嗅ぎ始めた。その顔があんまりひょうきんなので、おもわず笑ってしまったら、その声に驚いたのか、一度ピョンと飛び上って、一目散に元来た道を逃げていった。……その話を聞いて以来、私は是非

一度アナグマに出会いたいと思うようになったのです。アナグマには、いつかは山の中で出くわすに違いない。しかし、こちらから探し出す方が早い、そう思ったのです。主にミミズや昆虫を取る事は知っていたので、苔や地表面の荒された所を見つける事にした。そして、今年観察しているアカゲラの巣の周辺が、そんな状態になっていたのに気がついた。きっとその場所に出てくる、そう確信した。そこに通い始めて四日目、突然足元からヤマドリが飛び出した。5~6羽のヒナは四方八方に歩き去り、母鳥は片方の翼を振わせて、まるで踊る様な擬傷行動を見せながら、少しずつそこから離れて行った。「ヤマドリだったのか。」と少しガッカリ。そう言えば、ヤマドリも、地表をはがして、ミミズや昆虫を採るのです。気を取り直して、まあせっかく来たのだから苔の写真でも撮ろうと思って歩き出した時、そいつはモコモコと、ヤブレガサの中から顔を出した。眼の回りから額にかけて走る黒い筋、間違いない、アナグマだ！動くな、気づかれるぞ！そう自分に言い聞かせる。しかし幸いに、私に気づかないまま、陽だまりの中にある岩の上で、居眠りを始めた。実は、彼らはひどい近眼らしく、こちらが声を出したりしなければ、気づかずに目の前を素通りして行ったり、私の同僚の様に幸運な出会いがあったりする訳です。

その後も時々そこに行って観察しているが、よく見ると苔の一部分だけが茶色く枯れている。どうもそこがお気に入りの、昼寝の場所らしかった。

こうして、とにかく私の欲求不満は解消されたのですが、次々新しい目標が出来て来ます。できれば今年中に、モモンガとクマの生息を確認したいと思っています。もちろん、餌をばらまいておいて、おびき寄せる、などという姑息な手段を使わないのが私の信条です。少々時間はかかっても、正攻法でやりたいと思っています。(大台ヶ原管理事務所)

なきごえ9月号もくじ

動物と私 2
"シカ舎はバンビで一杯" 3
動物園グラフ・動物園日記 4-5
自然認識と生態的展示 6-7
オオマダラキーウィの繁殖 8-9
キーパーズアイ 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

"アルダブラゾウガメ"

毎年夏になると日光浴のためには虫類舎から他のリクガメと共によく陽のあたるところに移されてすごします。

(撮影：大野 尊信)



"シカ舎はバンビで一杯!"

今年はニホンシカの赤ちゃんが8頭誕生しました。例年5, 6月に生まれるのですが、今年はどういうものか8月に入ってからでも2頭誕生しており、シカ舎は時ならぬ鹿の子もようが一杯のバンビラッシュを呈しています。(撮影：宮下 実)

動物園グラフ

“サマースクール特集”

小学校4・5・6年生対象のサマースクールに、174名の子供たちが参加し、様々なことを体験しました。
(写真・文：森本 委利)



ラクダたち気持ちよさそう!



ゾウのうんこは何グラムかなあ?



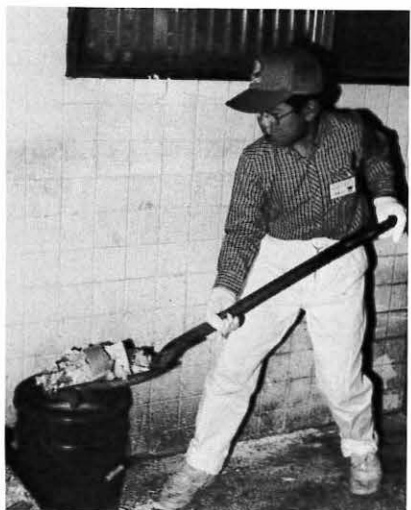
あれがサイチョウっていう鳥か?



←ヘビってさらさらしてるんだなあ!



切れるかしら!?



スコップでのエサまぜはたいへんだなあ/ヨイショ!

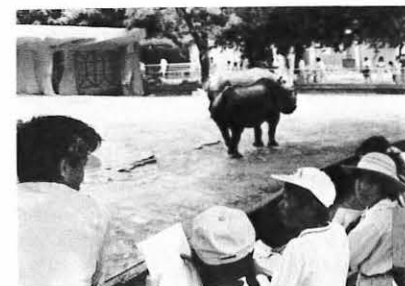
6・7月の動物園日記

- 6 / 28. オランウータンが交尾しました。
- 6 / 29. 保護で元気を回復したムクドリを自然復帰させました。
- 6 / 30. バードケージの擬木の巣台にいるシュバシコウのヒナ2羽に脚帯や翼帯を装着しました。
- 7 / 1. コアラオープニングセレモニーが朝に催され、正午よりコアラの一般公開が始まりました。
- 7 / 2. コアラの検便を実施しました。
- 7 / 4. 本年ふ化のシュバシコウのヒナ6羽のうち1羽が初めて巣立ちしました。

- 7 / 6. ニホンジカが2頭生まれました。
- 7 / 7. 松原警察よりインドクジャクの保護預りがありました。飼主が判明したため返却しました。
- 7 / 8. メジロガモが1羽人工ふ化しました。
- 7 / 12. カリフォルニアアシカの2歳になるオスの“純一”が左の前足をいためたようで、ひきずるため、治療を始めました。本年人工ふ化、育すうを行い大きくなったオシドリ1羽、ツクシガモ2羽を、バードケージ“鳥の楽園”に放ちました。
- 7 / 13. アミメキリンのメス“サキコ”が発情しました。



↑
かわいいノカモとニワトリのちがいはどこなのか?



←飼育係のおじさんノ質問ッ!「クロサイは……」



ヤッター!!
ついに出たぞヤギのミルクノー



↑
チンパンジーの歯はどんなかなあ? アー。



ゾウはスイカをどのようにして食べるかなあ?



体重計の上へよいしょ!
ヒョウモンガメは何キログラム?

- 7 / 14. ヒョウの子供が1頭生まれました。新しく来園したショウガラゴ(メス)の検疫が終わったので、個体識別のための入れずみをした後、他の個体と同居させました。これで、オス1頭、メス1頭となりました。
- 7 / 15. アシカの“純一”がボスから攻撃をうけたらしく、腹部を大きく切ったので、早速手術を施しました。
- 7 / 16. クロサイの血液更新のために行う、オスの交換のため、捕獲会議を行いました。第51回動物のお話とスライドの会「野生のオランウータン」を開催しました。
- 7 / 17. サバンナモンキーの赤ちゃんが1頭生まれ

- 7 / 18. 第2回日本動物園水族館協会・種保存委員会に、当園から1名出席しました。
- 7 / 19. アオバズクを1羽保護しました。
- 7 / 20. アライグマの子供を保護しました(後に飼主がみつきり引きとられました)。
- 7 / 22. 第15回サマースクールが始まりました。
- 7 / 23. キーウィの体重測定を行いました。
- 7 / 25. 獣医学を専攻する大学生の夏期病院実習がスタートしました。
- 7 / 26. コアラ3頭とも大変元気良好です。
- 7 / 27. フクロウの性別鑑定を行いました。
- 7 / 28. 第15回サマースクールが終了しました。

若生謙二

日本にできあがることになる博物館と動物園について、明治8年に内務省に提出された意見書には、特に次の項目がそえられていた。

「マダ館ノ周囲ヲ以テ広壯清麗ノ公園トシ、動物園ト植物園トヲソノ中ニ開キ、ココニ遊ブモノヲシテ、タダニ一時ノ快樂ヲ取り、ソノ精神ヲ養フノミナラズ、カタハラ眼目ノ教ヲ亨ケ、識ラズ知ラズ開知ノ域ニ進ミ、ソノ中ニ慣染薰陶セシメバ、スナワチ博物館ヲシテ普通開化ノ学場トナスモ、アニ誣ルトセンヤ」

のちに博物館の世界で主張されるペインレスエデュケーション（苦痛のない学習）の考え方の原型がよみとれる。それを實現する器として、公園という

環境の重要性がのべられているのである。ジャングルデプラントに範をもと



ブルックス動物公園の案内展示

「ジャングルワールド」めた動物園は、ここに一つの理想を見だしていたのである。だが、その後の道程が容易でなかったことは、すでに佐々木時雄の著作で明らかにされている。

一方、世界一の動物園大国として、多くの動物園を開設していたアメリカで1967年に動物園計画のテキスト「Zoological Park Fundamentals」が刊行された。このテキストは、これまでの通説であった動物園の4つの役割の他にあらたに「Nature Appreciation（自然認識）」という一項を設けたことで有名な著作である。それによれば「動物園のレクリエーション的な役割と密接な関係をもっているのが、自然に親しむことのきっかけを与える場としての、動物園の重要な審美的役割である。自然美にみたまされた環境の中におかれ、品位があり、美しく、そして正しくつくりあげられた展示は、利用者にたいして、自然への認識をおのずから開眼させないではおかない。」と述べられている。

ここでは先の意見書でのべられた考え方が、自然への認識をいざなう展示として、より明確に位置づけられている。この考え方は、当時多くの共感をよんだ。レクリエーション、社会教育、学術研究、自然保護という戦前からいつくされて手あかのついた表現にあきがきていたのである。

動物園の展示は、教育という伝達の体系のみでとらえられるべきではない。すぐれた音楽や造形作品が人間のたましいをゆさぶるように、また山野や原生林でうつりゆく自然の姿をまのあたりにしたときに感動するように、みる人の感性に働きかける文化

の装置として位置づけられるべきである。少なくともここでいう自然認識とは、このように解されるべきであろう。

「識ラズ知ラズ開知ノ域ニ進」む動物園、「自然への認識をおのづから開眼させないではおかない」動物園の展示は本当に存在するのだろうか。この著作があらわされた1967年には、この理念はまだスローガンでしかなかった。

最近つくりあげられた、アメリカ西海岸ワシントン州タコマにある小さな動物園、ディファイアンス岬動物園・水族館のツンドラ地区と海岸地区の展示は、十分これらにこたえてくれる展示であった。このことは、モンキー203,204号に詳しく報告したが、この展示の役割は、教育という既成の価値体系の伝達という次元のみでかたるには、平板にすぎると思う。そこには、感動や発見がみられるのである。

このディファイアンス岬動物園・水族館やウッドランドパーク動物園を皮切りに、アメリカではこのところこうした生息地での動物の生活を展示する動物園が、目だつてふえている。これまでの動物地理学的配列に対して、生息地別配列の展示であり、これらが生態学というバイオームの概念にもとづいていることは、すでに「なきごえ」1987年1月号、「どうぶつと動物園」1987年12月号でのべたとおりである。

最近のアメリカの動物園のこのような動きに対して、米国内でもすでにいくつかの論評がなされている。それらのうちのいくつかは、東京動物園協会発行の「海外動物園情報」で翻訳紹介されているので、容易によむことができる。主なものにふれてみよう。メリッサ・グリーンは、「No rms, Jungle Vu」と題する評論で、最近の動物が生息地のなかで生活している様子を展示する方法を、ランドスケープイマージョンとよんで、その様子を紹介している。



ブルックス動物公園の案内展示
精巧につくり上げられた岩肌にはヒルの姿もみられる

この様式の皮切りとなった、ウッドランドパーク動物園の熱帯林地区の

ゴリラの展示が誕生した経緯についてふれたあと、動物園計画にとって重要な指摘をおこなっている。

「昔は、動物園の園長が新しいライオン舎が必要だといえ、市議会は契約を要請し、その地方の実績のある建築家を雇った。一郊外の病院や新しい高校を設計したような人物だ。そして彼にお金を支給して国内をみてまわらせライオン舎に精通してもらった。彼は4〜5ヶ所の動物園を訪ね、各々からデザインの秘けつを学ぶ。区切りのバーはどの位の幅か、セメントをどの位の流しこむか、とか。その後、建築家は家に戻り、ライオン舎の設計を始める。」「それま

での動物園の動物学者のかかえていた問題は、モニュメントをつくりたがる建築家としよつちゅうつきあわなければならなかったことだ。」「動物園が失敗してきた理由のほとんどは、建築家を雇ってきたことだ。」

動物に家屋をあたえる以上、建築家は必要である。しかし、それが動物の生息地と無縁のコンクリートのかたまりであつては、このような批判がおこるのも無理はない。ウッドランドパーク動物園が世界の注目をあびる生態的展示の皮切りとなりえたのは、その計画のコンセプトにある。「自然が基準である。」と明言したのである。設計をうけつたジョーンズ&ジョーンズは、各地のゴリラ舎を訪ねる大旅行をするかわりに、野生のゴリラがどのように生きているのかを見てきたフィールドサイエンティストやゴリラ専門家に相談した。動物の寝室などの建築物は、できるだけ地下におさえられ、建築の上にも植栽が施された。学ぶべき対象の基準は、過去の作品ではなく、自然の秩序にもとめられたのである。

メリッサ・グリーンは、同じ評論のなかでもうひとつ面白い指摘をしている。すなわち、ハーゲンベックのモート式展示という革命は、アメリカにも大きな影響を及ぼし、1960年までに米国内のほとんどすべての動物園が「自然主義的」モート式展示を行った。しかし、これら後期の展示における自然主義は、芸術と建築の近代主義的傾向によって部分的に修正され、抽象化された方法で自然に近づいた。

「大きな手のようにみえるディファイアンス岬動物園・水族館の「ツンドラ地区」エッチングされた彫刻は、木を表現していた。しかしそれらは動物の住居というより、彫刻として成功し（結局は小さな住人である動物を威圧した）」、というのである。

この事実は、日本でもみることができる。芸術と建築の近代主義的傾向は、世界をながれていた。1950年代から60年代にかけて、タイル張りコンクリート製の「近代的」モンキーアパートやネコ科舎が建設されたことと、抽象的に造形された自然をおりこんだモート式展示がすさまじいいきおいで普及したこととは、同根であった。芸術と建築の近代主義的傾向は、動物園デザインの世界にもながれていたのである。

このような流れのなかでみると、ウッドランドパーク動物園を皮切りにはじまった一連の生態的展示の動きは、芸術と建築の世界をめぐる動きと符合する。コンクリートのモート式、建築的動物舎といった近代主義的傾向をふみこえた、動物園のポストモ



ダンである。ターニングポイントは、自然を基準においたことであろう。これはまた、ハーゲンベックの本来の理念の復権でもある。動物園のポストモダンについては、改めて論じることにして話題を本題へもどすことにしよう。

さて、生息地の状態をあらわすもうひとつの最近の事例を紹介しよう。最近のアメリカの動物園展示において、ウッドランドパーク動物園と双壁をなす生態的展示として、ブルックス動物公園のジャングルワールドがあげられる。ウッドランドパーク動物園やディファイアンス岬動物園・水族館との大きな違いは、室内展示であることだ。このような室内展示としては、昨年ニューヨークのセントラルパークに誕生した熱帯地区の展示がある。同じニューヨーク動物園協会の経営になるこれらの生態的展示の詳細については、海外動物園情報にボブ・ライスの論評が紹介されている。また、筆者も「どうぶつと動物園」1989年3月号で紹介した。

これらの室内における生態的展示としてのできばえは、じつに想像をこえるものがある。エポキシ樹脂やさまざまな小道具を用いてつくりあげた、そのすさまじいリアルさは、同じ室内の生態的展示として数年前に完成したブルックフィールド動物園のトロピカルワールドを、すでにひと昔前のものになっている。これは室内における生態的展示としては、ひとつの極致であろう。コンウェイのテーマである、熱帯林を紹介し、利用者による保護を訴えるという役割をはたすだけの迫力は十分にあるだろう。

だが、つまるところ精巧なレプリカと生きている自然との違いなのだろうか。筆者は、この室内展示をみて感じたことが、おどろきであり、感動ではないということに気がついた。ウッドランドパーク動物園の熱帯林地区やディファイアンス岬動物園・水族館のツンドラ地区における生態的展示のテーマは、野外のランドスケープである。このような野外のランドスケープは、天候や四季の変化に対しても、あ



ミルウォーキー動物公園のクマのグロット

凝岩は抽象的にデザインされている
よみと
ることができるのである。野外のランドスケープは、自然のコンテクストの中にある展示である。ランドスケープイマージョンとよばれる生態的展示も、室内の展示と野外のランドスケープを同列にあつかうことはできないようだ。

本物には発見がある。動物園にとってのテーゼとは、やはり自然が基準なのだろう。

(日本展示学会会員)

オオマダラキーウィの繁殖

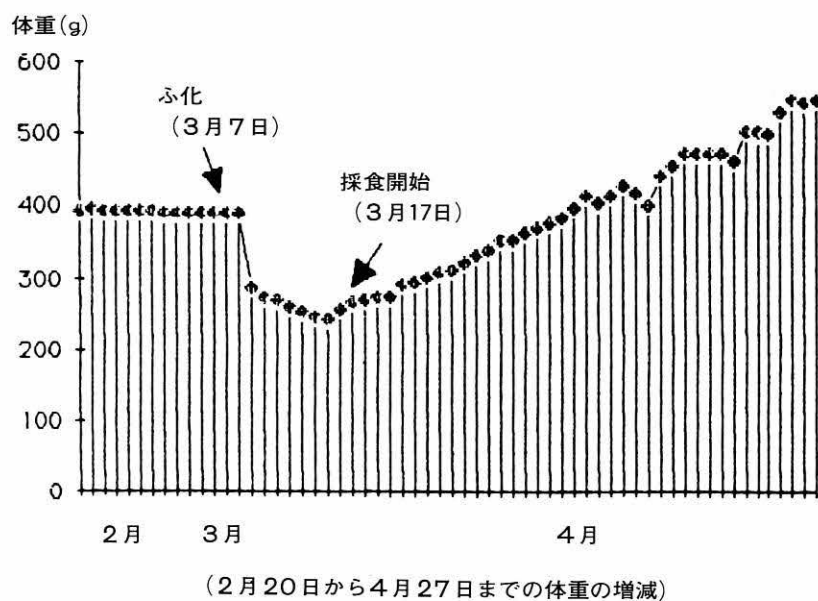
エリック K. フォックス
(オトロハンガ動物学協会)

オオマダラキーウィは3種のキーウィのなかで最も大きく、その分布はニュージーランドの南島の西部のグレマウスから北西ネルソン森林国立公園の間に限られています。オトロハンガ動物学協会は1981年にオオマダラキーウィ1番を受け入れ、1983年から1984年には2個、1984年から1985年にはさらに3個の産卵がみられたがいずれも無精卵でした。1985年10月には最初の有精卵が得られ、人工ふ化で嘴上げしましたが、ふ化にはあたりませんでした。

1986年8月12日にその繁殖期の最初の産卵がありました。穴から卵を取り出すときに雄が卵を壊す危険があるため、自然抱卵させました。しかし56日目に卵を取り、卵重と大きさを計測し、生きているとは思われなかったので殻を割って開いたところふ化直前まで成長したひなが見つかりました。

1986年12月24日に2卵目を産卵し、56日目まで自然抱卵させた後取りあげました。この卵は有精卵で重さは397.2g、長径128mm、短径78mmでした。それを内部の空気を攪拌しないタイプのふ卵器に入れ温度35℃、湿度60~70%にセットしました。毎日卵重を測定し、一時間ぐらい暗い卵保管室におきました。これは自然抱卵しているキーウィの行動にあわせ、周期的に卵を放冷し、自然な状態にするためでした。またこれは殻の中で胚を動かす、はいが殻にくっついて死ぬことを防ぐためでした。毎日の検卵はふ化に悪影響を及ぼさないように行ないませんでした。しかし、放冷中に卵の上に麦藁を置いて、卵の中のひなのわずかな動きを調べました。ふ化前の16日間の一日当たりの卵重の減少は0.4~1.3g(平均0.8g)でした。

1987年3月6日に上記のような毎日の作業を行なっ



ていた時、卵の気室側に髪の毛状の亀裂をみつけました。予想していたふ化日より少なくとも1週間は早かったため、この亀裂は扱い方のミスによるものと考えました。しかし、一晚経過した翌朝の検査時には気室側の穴が5mmまで進んでいました。この時点でふ卵器の温度が1℃上るとい問題が起こり、さらに上昇する危険性があるため、一定の値を示している予備のふ卵器に卵を移し、湿度は80~90%に上げました。



オオマダラキーウィのひな "エリック" の体重測定

ふ化の状況は30分間隔で観察しましたが、11時までは変化はなく、その時点で穴は35mmまで広がっていました。13時まではひなを包んでいる膜が現れひなの動きはさらに活発になりました。14時には亀裂は卵を完全にひとまわりしました。30分後にひなは3/4まであらわれ、15時に完全にふ化しました。ふ化には合計25時間を要しました。

15時21分にひなの体重を測定したとき、ひなは頭

を持ちあげようとしていました。ふ化後1時間以内にひなは鳴き声をあげましたが、24時間はふ卵器内で人工ふ化中と同じ温度を保ちました。温度は徐々に32℃まで下げ、次の4日間は静かな状態を保ちました。

キーウィのひなのふ化の成功にともない、ふ卵器から育すう器へ移すときのための準備をしました。育すう器の保温部分には土と落ち葉を入れ、温度は27℃にセットしました。

1987年3月12日、ふ化後5日目にふ卵器からひなを取り出し、育すう器に移す前に体重測定を行いました。体重は284.4gでした。7日齢からひなは育すう器の中で走りまわりその中を探索するようになりました。小さな小枝と石を食物をすりつぶすために飲み込むようになりました。3月17日、ひなの体重は243.3gになりました。10日齢で初めて採食が観察されましたが、ひなの体重減少は18日齢まで続きました。11日齢での体重は242.2gでした。

育すう器の温度は19日までに25℃まで下げました。その日初めて体重が11.1g増加し、253.3gになりました。その日から体重は増加し22日齢では386.6gまで達しました。1日の体重の増加量は0.6-16.4g(平均6.871g)でした。

ひなはあまり眠らず、活動時間は昼夜に関係がありませんでした。育すう器の清掃のため毎日水を噴

霧するとき、大変活発に動き、声をあげました。現在の餌はミミズとともにキーウィハウスの人工餌を与えています。人工餌は馬肉ミンチ、ミミズ状に細長く切った牛の心臓肉と豆腐(訳注:ニュージーランドにはチーズぐらいの固さの豆腐があり、細長く切ることができる。)、バナナ、干ブドウ、酵母、はい芽、大豆油を押し麦状にした燕麥に水を加え、暖めたものに混ぜたものです。ひなはちゅうちよすることなく採食しています。新鮮な落ち葉は日常与えています。この論文を執筆している1987年4月22日現在ひなの体重は500.1gで、発育良好です。

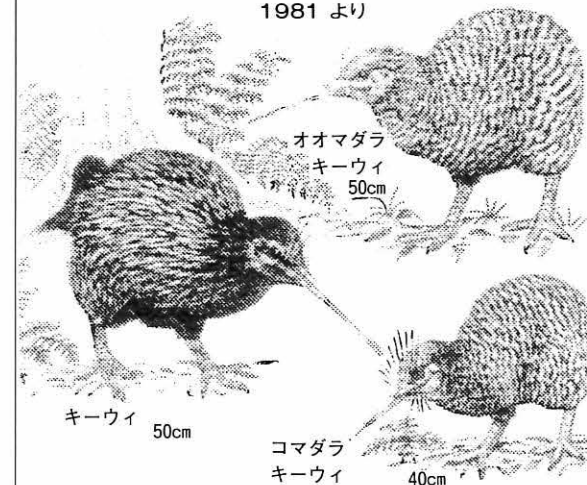
キーウィではふ化後10~15日で体重が増加し始めるのに対してオオマダラキーウィでは22日目から増加し始めました。飼育下でのオオマダラキーウィの繁殖は現在まで3例しかなく、これが正常であるかどうかは分かりませんが、われわれのデータは国立野生生物センターでの例と一致するものです。私は来期に飼育下でこの種の繁殖データがさらに得られることを期待しています。

(この論文はThylacinus, vol. 12, No. 4, 1987に掲載されたもので、International Zoo News No. 208, Vol. 35/3, 1988に転載されたものより翻訳した。)

(訳: 榊原 安 昭)

《コラム》 三種のキーウィ

図版は THE NEW GUIDE TO THE BIRDS OF NEW ZEALAND, COLLINS, 1981より



キーウィ科の鳥は1属3種あって、すべてニュージーランドの特産の鳥です。オオマダラキーウィ以外には、南島に分布するコマダラキーウィとキーウィの2種があり、キーウィは北島に住むキタジマキーウィ、南島に住むミナミジマキーウィ、離島であるスチュアート島に住むスチュアートキーウィの3亜種があります。天王寺動物園では昭和45年からキタジマキーウィを飼育しており、現在オス3羽、メス1羽がいます。

昭和45年来園したペアのうちオスの"ニュージー"は現在も生存しています。キーウィの国際血統登録担当者であるウェリントン動物園のゴース・ワード氏からの手紙では、"ニュージー"は1969年7月8日にマウントブルース鳥類保護区に保護されました。その時、成鳥であったので少なくとも2歳以上であり、現在22歳以上になっていることとなります。現在飼育されているキーウィでは25年以上の飼育歴があり現在、ニュージーランドのウガ・マル協会で飼育されているもの、1969年にサンディエゴ動物園へ送られ、現在ブルックフィールド動物園で飼育されているものに次いで3番目に年長のキーウィになるとのことです。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

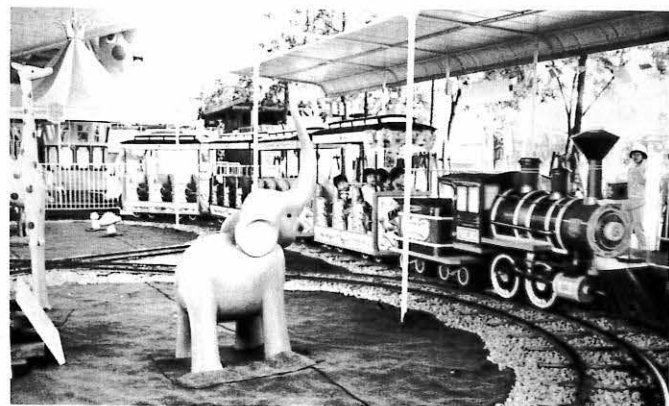
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく



フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉著

絶賛三版

猫の歴史と奇話

(定価・2800円)
送料・310円
A5判・260頁
口絵挿画・113図

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

第一章 猫の歴史

欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで

第三章 猫の報恩談

蛇を咬んだり、金を運んだりする

第五章 猫の奇話(上)

長命、多産、三毛猫などの形態の奇話

第七章 猫の奇話(下)

マタビを媚薬とする奇妙な習性など

第二章 猫股伝説

老猫化けてさまざまな怪異をなす

第四章 野性猫の存在

裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など

第六章 猫の奇話(中)

長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動

第八章 益獣としての猫

あらゆる角度から猫の生態と効用を探究

発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

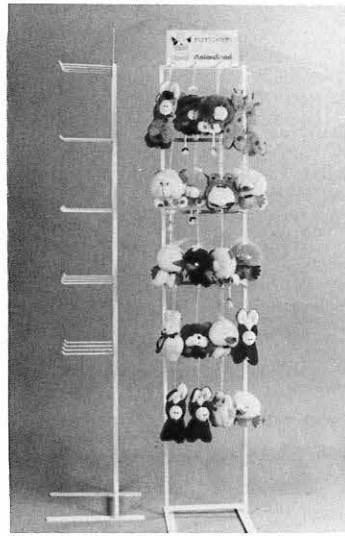
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425

- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。



大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

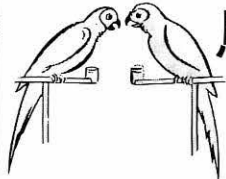


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

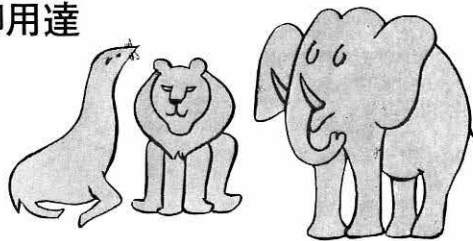
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内の お食事、ご休憩は

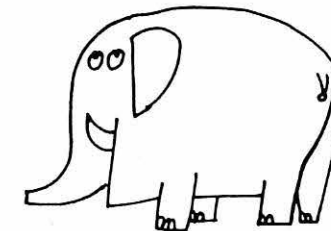
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

◎随時係員が待機して
おりますので説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



雪印乳業

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー とってもゼリー



とってもオレンジ



とってもピーチ



とってもキウイフルーツ



とってもキウイフルーツ



とってもマンゴット



とってもパイナップル

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1989年9月10日発行(毎月10日発行)第25巻 第9号 (通巻289号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 3 7 8 2 3

編集委員

(伊東重朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 斉田 尚 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭 / 森本委利 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 山下賢二 / 土谷正道)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 7 7 1 - 0 2 0 1

振替口座 大阪 3 7 8 2 3